

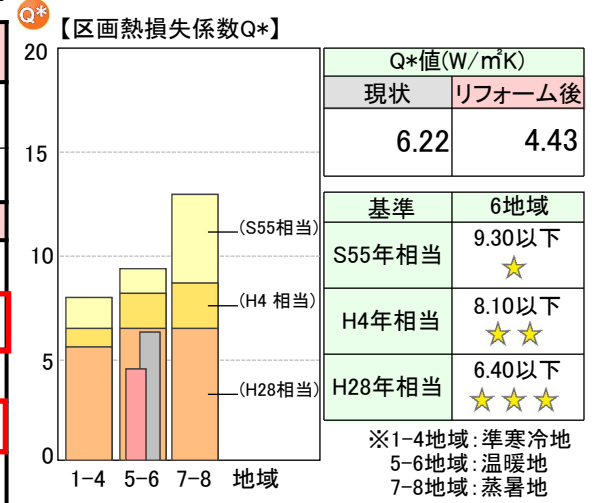
## 【建物概要】

邸名		床面積	97.20㎡ (うち工事対象の延べ床面積 25.92㎡)
診断者		地域区分	6地域 (温暖地)
建築地			

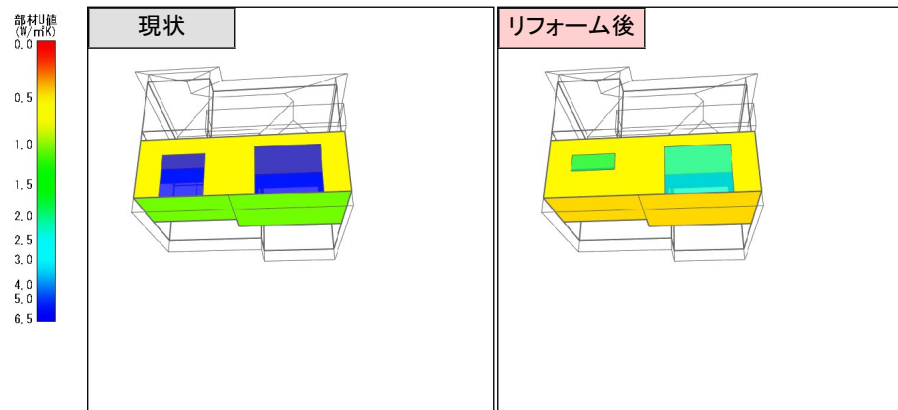
## Q\* リフォームによる断熱性能の改善効果

建物全体ではなく建物の一部の区画を断熱改修した場合の断熱性能を示す指標「区画熱損失係数Q\*(キュースター)」を用いて、改修前後のエネルギー削減や室温等を予測することができます。Q\*は数値が小さいほど性能が高いことを示します。建物の一部の改修であっても、設備の改修をバランスよく組み合わせることで、省エネルギーと快適性の向上を実現することができます。

現状		リフォーム後	
区画熱損失係数Q*	6.22 (H28年基準相当) ★★	4.43 (H28年基準相当) ★★★★★	
【参考】全体UA値	1.28	1.10	
各部位	断熱仕様	断熱仕様	U値
屋根/天井	グラスウール10K90mm	グラスウール10K90mm	0.49
床	押出法ポリスチレンフォーム1種30mm	床トップ剛床	0.45
外壁	グラスウール10K90mm	グラスウール10K90mm	0.56
窓	金属製: 単板ガラス	木製又は樹脂製: Low-E三層複層(A13以上)	1.75
間仕切り壁	断熱性能未確認	断熱性能未確認	4.55



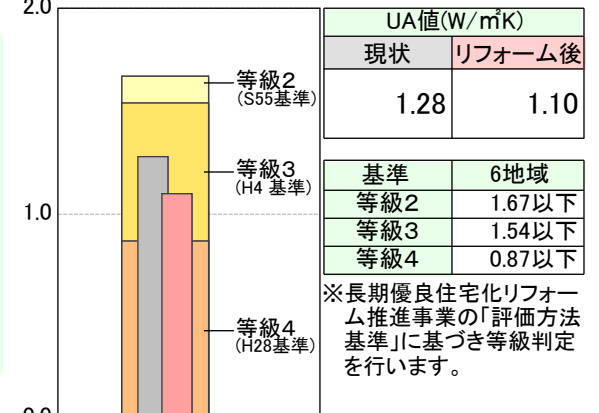
## 【熱損失量】



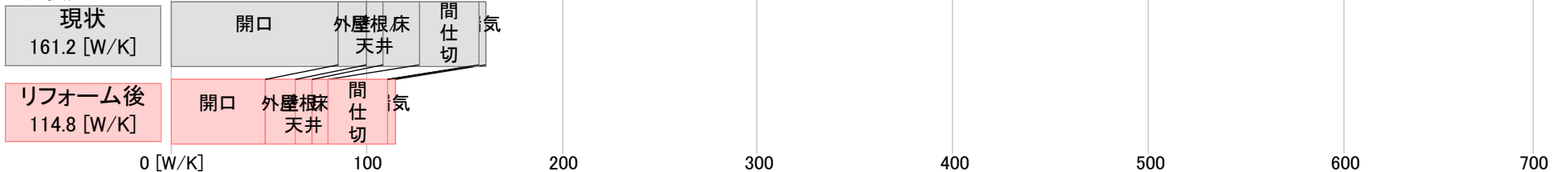
各部位のU値(熱の逃げやすさの度合い)をカラー表示しています。赤に近いほど熱が逃げにくく、青に近いほど熱が逃げやすい部位といえます。熱の逃げやすさはその部位の断熱材の熱伝導率と厚みから計算されます。

断熱リフォーム工事で熱の逃げる量(熱損失量)を減らせば、暖房エネルギーの削減、および室温を快適に改善することができます。室温が改善されると健康面での効果、すなわちヒートショックや熱中症の発生を抑制することができます。

## 【参考】全体UA値 (6地域)

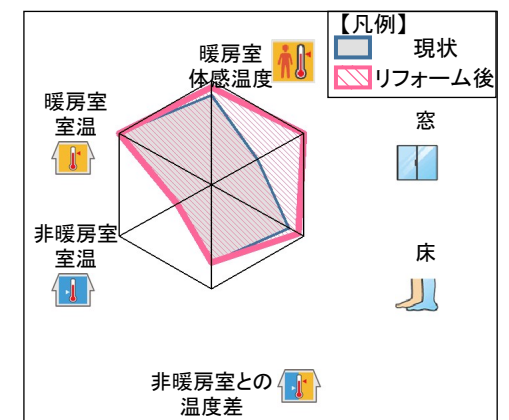
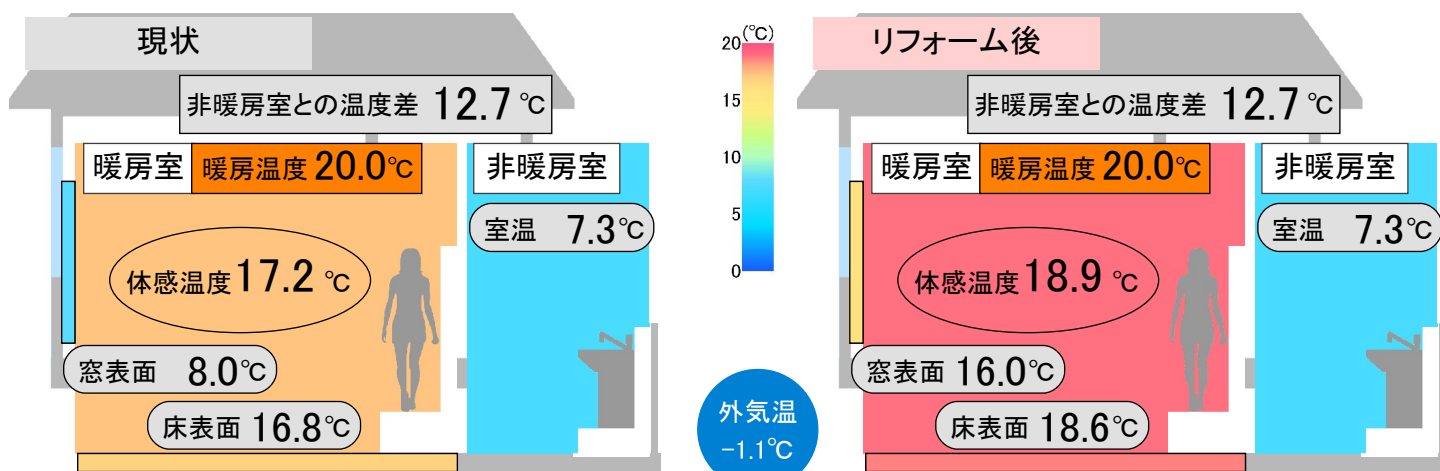


## ▼熱損失量



## 室温・快適性・健康性の改善効果

住宅の断熱性能を向上させるには、各部位に断熱材を入れたり、窓を高性能のものに入れ替えたり、漏気を止める工事が効果的です。これらの対策により、暖房エネルギーの削減だけでなく、快適性の向上の効果を得られます。快適性には、部屋間の温度差、部屋内の温度ムラ(上下温度差)や床・窓の表面温度の改善がポイントとなります。



レーダーチャートの外側ほど温熱環境が良いことを示しています。室温、体感温度、床は20°Cを満点、非暖房室との温度差は9.5°Cを満点、窓は16°Cを満点として表示しています。

※『改修版自立循環型住宅への設計ガイドライン』に示された、各部位のU値を元にした温度予測値を示します。  
 ※暖房を行い室温を20°Cに保った状態における各温度を示します。  
 ※体感温度とは、人が実際に感じる温度で、室温と、天井・壁・床・窓の表面温度から求めます。

## 断熱改修範囲

